

馬主だより

第69号

平成27年1月23日
発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆持続的成長には“挑戦し続けること リスクへの備え”！！

▼2015 年新たな年を迎え大寒の厳しい寒さが身にしみる季節の到来です。北海道の寒さはいよいよこれから本番、どうかお体を大切に自愛ください。今年も変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。▼ばんえい競馬は、昨年度に引続き今年度も発売額が好調に伸び、厳しいながらも安定的な成績を保っております。誠に喜ばしい限りです。しかし、これまで良かったからと言って、同じやり方をしている、生き残っていけない時代になっています。常に挑戦し続けることが肝要で、何もやらなければ確実に停滞してすぐに低迷に向かってしまいます。▼“攻撃は最大の防御なり”と言いますが、その前提としてはしっかりと守りを固めるということがなければなりません。その戦略を持つことが極めて重要です。▼経営者というのは安定を求めます。勿論、安定を維持できることは望ましいことですが、今は変化が激しく安定した世の中ではないだけに、将来発生するリスクに備え、次の目標を設定して経営者自らが舵取りし皆を率いていくことが大切です。少しの勇気とエネルギーでリスクに備えることが、次に来るであろう困難を最小限のダメージで食い止める最善の策です。▼しっかりと舵を握りしめ常に時代の一步先を読みながら変化に伴い修正していく事で正しい方向へ進むことができるのです。その備えをすることがばんえい競馬の持続的成長に繋がっていくポイントです。“備えあれば憂いなし”今年も勢いに乗って更なる高みを目指し邁進！！

平成26年度 ばんえい競馬 発売成績(累計)

開催124日間

CB 事業推進課投票グループ 資料提供

平成27年1月19日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成26年度			平成25年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
本 場	124	1,243,655,800	1,240,622,700	124	1,295,126,300	100.24	96.03	
直営場外	旭川北彩都	124	758,696,500	741,458,000	124	796,615,000	102.32	95.24
	ミンスポット北見	124	303,650,100	306,644,200	124	387,445,700	99.02	78.37
	ハロンス岩見沢	124	222,591,900	212,308,200	124	249,749,000	104.84	89.13
	ハロンス釧路	124	96,467,200	94,174,800	124	107,597,800	102.43	89.66
	ハロンス名寄	124	109,293,800	110,462,200	124	126,450,500	98.94	86.43
	アプスポット網走	124	104,179,500	100,683,300	124	123,022,100	103.47	84.68
	琴似駅前	124	108,630,800	113,813,200	124	92,187,500	95.45	117.84
	イルムふかがわ	124	100,883,100	100,997,300	65	66,920,900	99.89	150.75
電投	オッズパーク	124	3,425,167,800	3,317,625,800	124	3,043,937,200	103.24	112.52
	OP(七重勝)	124	38,549,300	51,016,900	124	35,289,000	124.67	109.24
	OP(五重勝)	124	25,054,400		124	32,646,800		76.74
	競馬モール	124	2,267,197,400	2,150,737,400	124	1,690,638,500	105.41	134.10
	SPAT4	43	571,123,800	542,026,300	13	74,105,200	105.37	770.69
広域場間場外	—	1,037,193,300	979,664,500	—	1,246,334,900	105.87	83.22	
場外・電投計	—	9,168,678,900	8,821,612,100	—	8,072,940,100	103.93	113.57	
合 計		10,412,334,700	10,062,234,800		9,368,066,400	103.48	111.15	
1日平均	124	83,970,441	81,147,055	124	75,548,923	103.48	111.15	

平成26年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第21回6日目まで124日間)

平成25年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第21回5日目まで124日間)

会議等の様子

○ 帯広市へ平成 27 年度ばんえい競馬に関する事項について陳情！！ ～報償費の更なる増額へ 総額9億円の確保を求める～

平成 26 年 12 月 20 日(土)当協会会議室において、帯広市に対して、平成 27 年度ばんえい競馬開催に関する事項について陳情を行いました。

陳情要旨は、現況を踏まえこれ以上競走馬を減らさない施策が急務であり、そのためには競馬事業における競走馬確保の本質を見極め、馬主の視点から競走馬を持つ事に魅力を感じる、将来に夢や希望が持てるような環境づくりのため出来るだけ早い時期に具体的な施策を示すことを求めました。

また、主催者として経営課題や経営安定化に向けた取り組むべき方向性とばんえい競馬の進むべき道をしっかりと関係者に示し、今やるべき事に向かって関係者が意識を共有し一丸となって邁進することの必要性を訴えました。

陳情事項では、次の11項目に亘り要請しました。特に報償費については、今年度、年度途中においても改定(基準額増額)され、以前から当協会が求める、“預託料に見合った出走手当”に近づきつつありますが、未だ十分とは言えません。更なる増額を、また、1着最低賞金の底上げについても検討するよう求めました。

これによって、平成 27 年度の報償費総額については、今年度当初予算より約 7,600 万円増となる 9 億円を確保するよう、当協会として強く要請しました。

【平成 27 年度帯広市ばんえい競馬開催に関する陳情項目】

1. 報償費について
2. 11 レースの堅持
3. 優良 2 歳馬導入促進対策事業
4. 優良農用馬資源確保緊急特別対策事業
5. 獣医師の確保について
6. 競走馬以外のいきゅう制限について
7. レース映像の改善について
8. 予想等の情報提供について
9. きゅう舎内における家畜商行為禁止
10. きゅう舎の環境整備
11. 番組編成の格付け基準

注：上記、陳情内容については、後刻改めて回答と併せてお知らせ致します。

情報・ご案内

○ 帯広市議会 2014年定例会 本会議開催！！ ～ばんえい競馬の好調要因と今後の取組みの考え方示す～

帯広市は、平成 26 年 12 月 9 日(火)に開催されました市議会定例会の本会議において、ばんえい競馬関連の質疑については、有城正憲議員の質問に対し、佐藤ばんえい振興室長が答弁。今年度の発売額好調の要因や今後の取組みなどの考え方について説明しました。説明の概要については、次のとおりです。

【発売額が好調に推移している要因】

今年度これまで、電話・インターネット投票の発売額が前年度を 31.4%上回っている状況にあります。その要因といたしましては、昨年度に引続きナイター開催を実施したことによる他、南関東競馬主催者で運営する電話投票システム「SPAT4」での発売日数が昨年度より大幅に増加したことがあります。また、本年度よりCS放送で南関東競馬を除く地方競馬を一つのチャンネルで楽しむことができる「地方競馬ナイン」の放映が開始され、これまでばんえい競馬をご覧いただけなかった競馬ファンの方々がばんえい競馬をご覧いただける環境が整った他、より鮮明なレース映像を携帯電話、パソコンなどで見る事が出来る環境が整備されたことが挙げられる。

【今後の発売額確保の取組み】

電話・インターネット発売額増の取組みといたしましては、ばんえい競馬の外部露出 を様々な媒体を活用して増やしていくことが重要であると考えています。具体的には、ばんえい十勝オフィシャルサイトのスマートフォン版の作製、CS放送「地方競馬ナイン」での情報提供を積極的に行うのに併せて、ばんえい競馬の迫力と醍醐味を映像から感じていただくためのレース映像の高画質化に向けた検討を進めて参ります。

また、北海道内は勿論、首都圏、東海、関西地区のスポーツ新聞での馬柱掲載による予想情報を拡大いたします他、電話投票委託会社と連携して、それぞれのサイトでの予想情報の提供、ファンサービスの充実などの取組みを積極的に進めて行きたいと考えています。

北海道内の取組みといたしましては、新たな場外発売所の開設に向け引き続き情報収集を行う他、中央競馬の発売体制強化に向けた取組みを進めて参ります。

【長期的な競馬の継続開催の認識と対応】

ばんえい競馬の中長期的な開催のためには、競走馬の確保が最重要課題であります。

農用馬生産振興方策として国などの支援制度がございます。これらの制度の継続実施とともに新たな振興施策の実施に向けた行政活動を継続することが重要だと考えています。

競馬主催者としては、ばんえい競馬を継続実施することが農用馬生産に繋がるとの観点から、競馬運営のための収益確保は最優先です。その中であって、後年次の施設改修や更新、万が一のための財源を確保しつつ競馬運営のための様々な取組みをバランス良く実施していかなければなりません。

競走馬確保の取組みの観点からは、競走賞金等の報償費の増額とともに農用馬生産者の生産意欲の高揚に資するために、関係団体の方々のお話を聞かせていただきながら生産奨励に向けた取組みを検討して参りたいと考えています。

○ JRA馬券発売好調 前年売上げ五割増！！

～帯広市運営の5販売所で 1日平均1,084万円を発売～

帯広市は、本場帯広競馬場及びばんえい競馬の直営場外発売所のうち4箇所(旭川、北見、釧路、札幌)において、平成 25 年度から日本中央競馬会(JRA)の馬券発売を開始しましたが、今年度は平成 26 年 12 月 21 日までの 1 日平均発売額が 1,084 万円と昨年度の 745 万円から約五割近く増加し、着実に売り上げを伸ばしています。

帯広市によるJRA馬券の発売は、平成 25 年 6 月の開始当初後半 3 レースのみの発売でしたが、平成 25 年 9 月以降は後半 5 レースに拡大し、昨年 10 月からはG1レースに限って前日発売を開始しました。

帯広市ばんえい振興室では、発売好調の要因は「JRA馬券を発売していることが、徐々に知られてきた」と説明しており、今後は「JRAファンが、ばんえい競馬に目を向けるきっかけになれば」と話しています。JRAの発売と共に新たなばんえい競馬ファン獲得やばんえい競馬の発売への波及効果なども今後に期待を寄せます。

○ 2015 年お正月開催 “5 億 8,661 万円” 発売好調！！

～1日平均 1 億 1,732 万円と前年比 10.1%増～

2015 年新春のばんえい十勝お正月開催は、元日から 5 日までの連続開催を実施しました。5 日間の発売総額は 5 億 8,661 万円となり、昨年度 6 日開催の発売額 6 億 3,905 万円には及ばなかったものの、1 日平均では 1 億 1,732 万円と前年度比 10.1%増と好調なスタートを切りました。

元日から 5 日までの 5 日間には、帯広競馬場で帯広記念や天馬賞などBG1グレードの重賞競走や多彩なイベントを実施、新春のお正月開催を盛り上げました。

また、今年からはゴール映像がスローで再生できるようになり、より迫力のあるレース映像がファンに提供されるようになりました。

○ (公社)日本馬事協会内国産農用種雄馬購買馬決定！！

～ホッカイヒカル号、レットダイヤ号、オオノトップ号の 3 頭が購買に～

平成 27 年 1 月 13 日(火)帯広競馬場におきまして、公益社団法人日本馬事協会が購買する、平成 26 年度内国産農用種雄馬が決定されました。

今年度は、ホッカイヒカル号(11 歳)、レットダイヤ号(8 歳)、オオノトップ号(11 歳)の 3 頭が購買となりました。なお、購買馬の引き渡しは、レットダイヤ号、オオノトップ号が 2 月 17 日(火)、ホッカイヒカル号は 3 月 24 日(火)にそれぞれ帯広競馬場で予定しております。なお、購買の結果及び配置先については、次のとおりです。

【平成 26 年度公益社団法人日本馬事協会購買決定馬】

購買馬名	年齢	クラス (万円未満)	馬主	配置先団体
ホッカイヒカル	11	オープン	山根 福司	ホクレン札幌支所
レットダイヤ	8	150	高柳 稔	ホクレン北見支所
オオノトップ	11	150	久保 藤孝	釧路農業協同組合連合会

注：なお、購買馬の検取引渡しについては、レットダイヤ号、オオノトップ号については、2 月 17 日(火)、ホッカイヒカル号は 3 月 24 日(火)帯広競馬場において行う予定です。

○ NARグランプリ 2014 ばんえい最優秀馬“インフィニティー”受賞！！

～3千勝達成 大河原騎手に特別賞～

地方競馬全国協会は、1 月 13 日(火)、2014 年に国内地方競馬で活躍した人馬を表彰する“NARグランプリ 2014”の受賞馬、受賞者を決定いたしました。

ばんえい最優秀馬は、ばんえい最高峰のばんえい記念を制し、その後重賞のドリームエイジカップも勝ったインフィニティー号(牡 9 歳 馬主 駒井 鉄雄 金田きゆう舎)が受賞となりました。

また、大河原和雄騎手(服部きゆう舎)は、昨年、地方競馬通算 3,000 勝を達成したことが認められ、特別賞を受賞しました。

おめでとうございます。今後益々のご活躍を心よりご祈念申し上げます。

なお、表彰式典、祝賀会は、2月5日(木)東京都内のホテルで挙行されます。

＜インフィニティー号のプロフィール＞ ※2015年1月13日現在	
生年月日	:2006年4月4日(牡9歳)
血統	:父 フジエーカン 母 クインフェア(母父 ヒカルテンリュウ)
生産者	:坂井 健一(北海道川上郡標茶町)
馬主	:駒井 鉄雄
厩舎	:金田 勇 きゅう舎
通算成績	:256戦 34勝(うち重賞 3勝)
重賞勝鞍	:2014年 ばんえい記念、ドリームエイジカップ

レース情報

○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
12月21日	第43回 ばんえいダービー	ホクショウマサル	井内 昭夫	坂本 東一
12月28日	第16回 ヤングチャンピオンシップ	センゴクエース	千石 貞子	槻館 重人
1月2日	第37回 帯広記念	フクドリ	広瀬 豪	皆川 公二
1月3日	第8回 天馬賞	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人

優勝おめでとうございます！！

◆ 第43回ばんえいダービー(3歳オープン)

21日(日)は重賞・ばんえいダービー(3歳オープン)が行われ、単勝2番人気のホクショウマサルが優勝。イレネー記念に続く重賞2勝目を挙げ、改めて世代チャンピオンの座に就きました。

ばんえい菊花賞を制したハクタイホウが断然の1番人気。これに続いたのはイレネー記念馬のホクショウマサルで、定量戦での復活なるかに注目が集まりました。オークス馬キサラクが3番人気で、この3頭が上位人気を形成。以下は水をあげられた格好となりました。

馬場水分3.2%のなかスタートが切られ、各馬とも勢いよく飛び出します。ほぼ横一線で進み、道中も慎重に刻む展開。ハクタイホウ、キサラクといった人気どころが馬群をリード。ホクショウマサル、ホクショウメジャーもジワジワと位置取りを上げ、第2障害を迎えました。最初に仕掛けたのはハクタイホウ。それを見てホクショウメジャーとホクショウマサル、さらにキサラクも勢いよく登坂を開始します。これを真っ先に突破したのはハクタイホウ。しかし差なくホクショウマサルが続き、やや遅れてキサラクが3番手でクリア。人気の3頭が三つどもえの様相を呈します。

一進一退の攻防が続きましたが、残り20メートル付近でハクタイホウの脚いろが鈍りはじめ、ホクショウマサルがこれに並びかけます。キサラクもジワジワと脚を伸ばして2頭に並びかける勢い。こうなると苦しいのはハクタイホウで、徐々に後退。代わって先頭に立ったホクショウマサルはグイグイと荷物を曳き、確かな脚いろで残り5メートルを通過。そのまま押し

切り、第43代ダービー馬の栄冠をつかみ取りました。キサラクはよく追いつけたものの、2秒2差の2着まで。ハクタイホウはさらに0秒5差の3着に敗れました。

勝ったホクショウマサルは定量戦で見事に復活。とはいっても、近況は古馬B1を相手に連続2着と、徐々に復調気配にありました。しまいまできっちり脚を伸ばした内容もよく、今後も世代限定戦では主役を演じてくれるに違いありません。

キサラクは今の状態のよさがうかがえる内容で2着。勝ち馬には及ばなかったものの、牡馬顔負けのパワーを示したことに変わりはなく、今後も重量に恵まれた際には注目です。ハクタイホウはしまいに踏ん張りきれず3着。それでも定量戦で好勝負を演じられたのは地力の高さの証明。今後も馬場や重量次第でチャンスが巡ってくることでしょう。

◆ 第16回ヤングチャンピオンシップ（2歳産駒特別選抜）

28日(日)は重賞・ヤングチャンピオンシップ(2歳産駒特別)が行われ、北見産駒特別を勝ち抜いた単勝1番人気センゴクエースが優勝。デビューから8連勝を果たし、ナナカマド賞に続く重賞2勝目を挙げました。

破竹の快進撃を続けるセンゴクエースを巡る争い。これに、安定した走りを見せるホクショウキズナ、ナナカマド賞3着のワタシハサ克蘭ボがどこまで迫れるかが焦点となりました。

馬場水分2.5%でスタート。若駒のレースらしく、各馬勢いよく第1障害を突破します。その後も軽く脚を止める程度で推移し、やや縦長の展開で第2障害下にたどり着きました。

ひと呼吸置いて仕掛けたのはホクショウキズナ。続いてワタシハサ克蘭ボ、センゴクエースなど人気どころも登坂を開始します。他馬が障害に苦しむなか、この3頭が早くも第2障害を突破。三つどもえの様相を呈して、ゴールまでの平坦路を迎えました。ところが残り30メートルを切ったところで、勝負は早くも終幕へ。ホクショウキズナの脚いろが一瞬鈍ったところでセンゴクエースが敢然と抜け出し、独走態勢を築きます。立て直したホクショウキズナも懸命に食い下がろうとしますが、差はむしろ開く一方。そのまま余力十分の手応えでセンゴクエースが逃げ切り、世代ナンバーワンの実力を見せつけました。ホクショウキズナはゴール前で苦しくなり後続の追撃にさらされますが、何とか粘って2着を確保。障害4番手で下りたキンメダルが3着、テンカウイツが4着となりました。なお障害を3番手でクリアしたワタシハサ克蘭ボは、残り20メートル付近でパツパツと脚が止まってしまい、9着に敗れました。

良血センゴクエースの勢いはとどまることを知らず、これで8連勝。現2歳世代では圧倒的な力を見せつけています。しまいもきっちり歩けており、1戦ごとにレースぶりが良くなっている印象。今後も順調に成長していけば、父母に並ぶような活躍が期待できそうです。

2着のホクショウキズナは最後に後続に迫られたものの2着を堅守。センゴクエースに真っ向勝負を挑んでの結果だけに、価値の高い2着と言えます。一時の不振を完全に脱したのは明らかで、今後チャンスが回ってくる可能性も十分です。

◆ 第37回帯広記念（4歳以上オープン）

2日(金)は重賞・帯広記念(4歳以上オープン)が行われ、単勝6番人気のフクドリが優勝。北見記念に次ぐ重賞2賞目を挙げ、高重量戦での強さを見せつけました。

一長一短がある難解なメンバー構成。実績を買われてインフィニティー、ニュータカラコマがともに単勝3倍台。ただ、6番人気のフクドリまで単勝ひと桁台と大混戦の様相で、馬場水分2.3%のなかスタートが切られました。力の要る馬場のなかでの高重量戦とあって、ゆったりと進みます。ニュータカラコマ、フクドリあたりが馬群を引っ張り、キタノタイショウ、トレジャーハンターなども先行。ただ、各馬とも一進一退を繰り返し、ほぼ横一線の状態で第2障害を迎えました。じっくりと脚をためたのちホリセンショウが仕掛けますが、トレジャーハンターもそれを見て登坂を開始。しかし両馬とも掛かりは今ひとつで、さらにひと息入っていた他馬がいっせいに仕掛けはじめます。高重量もあって苦戦が続くなか、なんとか先頭でクリアした

のはホリセンショウ。ホッカイヒカルが差なく続き、やや離れてトレジャーハンター、インフィニティー、フクドリ、ニュータカラコマ、シベチャタイガーが並んで突破しました。先頭で軽快に障害を下りたホリセンショウでしたが、重量と馬場の影響もあったか早々と脚を止め、ホッカイヒカルが先頭へ。ところがそのホッカイヒカルも、残り20メートル付近でストップ。ここで先頭に立ったのが、末脚に絶対の自信を持つフクドリ。900キロ前後の重量に各馬が苦しむなか、確かな脚取りでゴールを目指します。残り10メートルを切って再度ホッカイヒカルが差を詰めにかかりますが、追撃はそこまで。最後は脚いろが一緒になり、フクドリが先頭で荷物を運び切りました。ホッカイヒカルは2秒7差の2着。さらに7秒3差の3着に、障害9番手から追い込んだフジダイビクトリーが入線しました。26度目の挑戦で重賞初制覇を飾った北見記念からおよそ2カ月。これまでの詰めの甘さがうそのように、フクドリが重賞連勝を果たしました。得意の力の要る馬場での高重量戦が増えたことに加え、最近障害の安定感が増してきた印象。これなら昨年のばんえい記念(2着)の雪辱も期待できそうです。

ホッカイヒカルは2013年の岩見沢記念以来、久々の重賞連対。もともと重い荷物も曳けるタイプでしたが、ここでの快走には驚かされました。積極的に運んだレースぶりもよく、復調のきっかけをつかんだと言ってよいでしょう。今後も、そのレースぶりに注目です。

3着にはフジダイビクトリーが入線しました。今季の旭川記念、ばんえいグランプリの勝利で重量を積まれていましたが、それをものともしない鋭い末脚はこの馬の実力を示すもの。多少でも重量面で恵まれた際には要注目の存在です。

◆ 第8回天馬賞(5歳オープン)

3日(土)に行われた重賞・天馬賞(5歳オープン)は単勝1番人気のオレノココロが勝利。重賞4勝目を挙げ、世代チャンピオンの座を不動のものとなりました。

定量戦ということもあり、ばんえいダービーなど世代重賞3勝を誇るオレノココロが1番人気。ばんえい菊花賞勝ちがあるコウシュハウンカイが続き、4連続連対中のイッキフジが3番人気で、この3頭が他馬をやや離して人気を集めます。実績が勢いか注目が集まるなか、馬場水分2.2%の力の要る馬場状態でスタートが切られました。

勢いよく飛び出した10頭は、そのまま軽快に第1障害を突破。横一線のまま中間点近くまで進みます。その後も一進一退を繰り返すものの、ほぼ横並びで第2障害を迎えました。

真っ先に仕掛けたのはショウチシマシタで、隣枠のイッキフジも登坂を開始。コウシュハウンカイも抜群のかかりを見せ、天板近くまで登ります。しかし、ひと呼吸入れて仕掛けたオレノココロが一気に障害を突破して先頭へ。さらにイッキフジ、コウシュハウンカイ、ショウチシマシタも僅差で続き、最後の平坦路を迎えました。しかし、ここからはオレノココロの独壇場。同じ重量を曳いているとは思えないスピードを見せ、スッと他馬を引き離しにかかります。これには後続もなすすべがなく、完全に独走態勢。最後は鈴木恵介騎手の手もまったく動かさず、余裕の手ごたえでゴールを果たしました。懸命に食い下がろうと脚を伸ばしたコウシュハウンカイが、6秒7差の2着。さらに12秒0差の3着には、障害6番手から歩き続けたセイコークインが入りました。

単勝人気が示すとおり、“定量戦なら”という期待感があったものの、その期待以上の圧勝を演じたオレノココロ。特に障害を下りてからの、持続力のある末脚は圧巻でした。今後は古馬相手の戦いとなりますが、持ち前のパワーとスピードで活躍していくに違いありません。

コウシュハウンカイは唯一これに食い下がっての2着。終始歩き続けたレースぶりも悪くありませんでした。ただ勝ち馬が強すぎただけで、今後もメンバー次第でチャンスが巡ってきそうです。セイコークインは障害でじっくりためたのが、しまいには生きた印象。今後もこの切れを生かせれば、展開や馬場次第で台頭してくるでしょう。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。